

# 報告書

評価 No.171010-1

|    |                  |    |             |
|----|------------------|----|-------------|
| 題名 | アセトン廃液の産廃コスト削減提案 | 提出 | 2017年11月24日 |
|    |                  | 分量 | 1枚(1/1)     |
| 宛先 |                  | 依頼 | 2017年       |

※関係社外秘でお願いいたします※

## 【概要】

から発生するアセトン廃液についての産廃コスト削減提案をします。  
すでにアセトン廃液は再資源可能であることが判っています。  
今回は、産廃受託、リユース供給それぞれのコストメリット、今後のご検討の流れを説明します。

## 【提案】

産廃コスト削減に有効な二つの案を提案させていただきます。

前回伺った情報を基に 10 缶/週使用し、20 缶まとめて廃棄した場合の貴社コストの比較をしました。

### 新液 + 産廃（新液価格 + 他社見積もりのお値段）

新液購入費（ 円/缶×20 = 円） + 収集運搬費（ 円）  
+ 処理費（ 円/缶×20 缶 = 円） = 円/2 週間 = 円/月

### 1 新液 + 産廃（新液価格 + 弊社産廃受託価格）

新液購入費用（ 円/缶×20 缶 = 円） + 収集運搬費（ 円）  
+ 処理費（ 円/缶×20 缶 = 円） = 円/2 週間 = 円/月

### 2 リユース供給（弊社供給）

再生品購入費用（ 円/缶×20 缶 = 円）  
- 資源買取費（ 円/缶×20 缶 = 円） = 円/2 週間 = 円/月

他社様と比較した場合、  
産廃受託で 円/月リユース供給で 円/月を超えるコストメリットがあります。

## 【今後の流れと課題】

まずは、本日提供する製品サンプル 2 種類を実際にお試しく下さい。

その後、品番切り替え等、貴社の社内調整を行って頂き、契約、リユース供給へと進んでいきたいと思います。



年内をめどに切り替えが可能な場合は、リユース供給に至るまでの廃液回収は前倒しで有価買取を行います。

年内の切り替えが困難な場合は、まずは産廃契約を締結し、産廃物として運用しながら、  
並行してリユースの検討を進めるのはいかがでしょうか。

なお、現在保有のアセトン廃液については、弊社実機テストサンプルとして、無化有用物として引き取らせて頂きます。

以上、ご検討いただけますようお願い申し上げます。

確認： 担当：